進行子宮体がんに対する術前化学療法と初回手術療法の比較

１．研究の対象

1990 年 1 月から 2016 年 12 月までの間に当院で子宮体がん進行期 IVb 期と診断され治療された患者さんが対象となります。

２．研究目的・方法

子宮体がんは、早期で診断、治療できれば予後良好な疾患ですが、進行期の場合は非常に予後不良です。中でも子宮体がんⅣb 期は 5 年生存率が 24%程度とされ、確立した治療はありませんが、現行のガイドラインによれば可能であれば手術療法を施行し、患者さんの状態に応じて、放射線療法、ホルモン療法、化学療法を選択しているのが現状です。当院でも上記方針に準じて治療を行っておりますが、①初回手術を行った後に化学療法を行う場合や、②術前に化学療法を行った後に手術を行う場合、③化学療法のみを行う場合、の大きく三通りに治療が行われてきました。

今回、子宮体がんⅣb 期の患者さんに対する治療方針の違いが、患者さんの予後に及ぼす影響を検討することとしました。この研究により、子宮体がんⅣb 期の患者さんに対するより適切な治療法が明らかになれば、臨床的により適切な治療方法の選択に役立つと考えています。

３．研究に用いる試料・情報の種類

本研究に用いる情報は通常の診療録に記載される情報や、診断及び治療時に得られた検体を用いるものであり、この研究のために改めて情報を取得することや、侵襲を加えることはありません。

取得する情報及び検体の内容は、年齢、進行期、治療方法、治療の奏効、再発や転移の状況、生命予後、検査データ、術前細胞診、術前組織診、手術摘出検体、採血残余検体等です。

４．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
防衛医科大学校 産科婦人科学講座 宮本守員
〒359-8513 埼玉県所沢市並木3－2
電話：04－2995－1511（内線2363）
FAX：04－2996－5213

研究責任者：
防衛医科大学校病院 産科婦人科学講座 講師
宮本　守員